

# 愛知県感染症情報

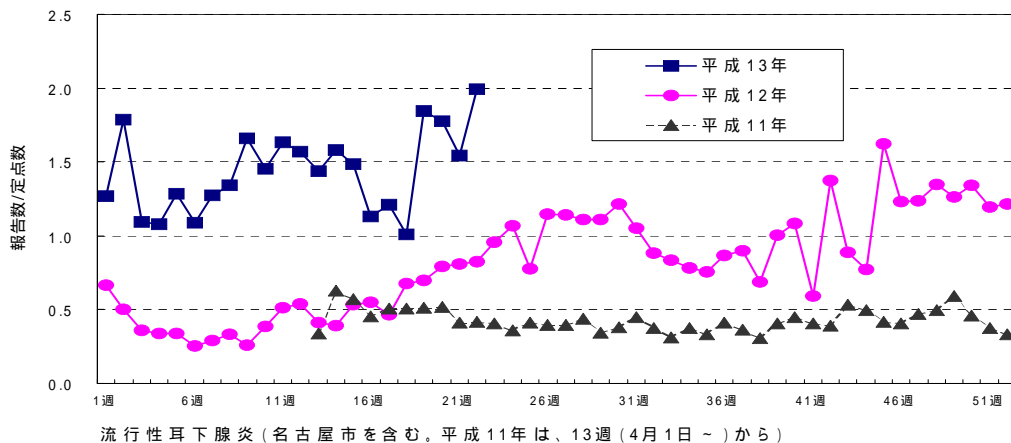
## 平成 13 年第 22 週（5 月第 5 週）

（コメント）

手足口病、ヘルパンギーナに流行の兆しが見られるようです。

流行性耳下腺炎に報告数の多い状況が続いています。

咽頭結膜熱、伝染性紅斑は、昨年より多い状況で流行しているので注意してください。



（定点の先生方からのコメント）

### ● 尾張西部地区

- ・ 水痘多いです。2歳男水痘、5歳男ムンプスはワクチン歴あり  
（一宮市 あさのこどもクリニック）
- ・ 病原性大腸菌検出者（O1 4歳男、O8 6歳女、O18 6ヶ月男、O26 2歳女）  
（尾西市 城後小児科）
- ・ 伝染性紅斑、手足口病、ヘルパンギーナ続発中。水痘も多し。fever 5～6日のアデノ様発熱も散發している。  
（岩倉市 なかよしこどもクリニック）
- ・ 高熱の持続する扁桃炎が多く認められます（一部はアデノウィルス感染症？）。伝染性紅斑の小流行続いています。手足口病がみられるようになりました。  
（江南市 みやぐちこどもクリニック）

### ● 尾張東部地区

- ・ アデノウィルス感染症が多くみられます。カンピロバクターと EPEC（O18）の合併1例（10歳男）。水痘、流行性耳下腺炎、伝染性紅斑もやや多くみられます。

(瀬戸市 津田こどもクリニック)

- ・ 今週は再び溶連菌感染症が目立ちました。(扁桃炎合併例多く認めました。)流行性耳下腺炎は流行続いています。水痘も少し目立ってきたようです。伝染性紅斑、学童、幼児散発。

(尾張旭市 佐伯小児科医院)

- ・ カンピロバクター腸炎 1例。サルモネラ sp.09群 1例。  
水痘・ムンプス小流行持続。溶連菌感染症めだちます。リンゴ病増えてきました。

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

- ・ ヘルパンギーナ・手足口病などヘルペス属のウイルス感染がみられました。溶連菌によるアンギーナ、扁桃炎もみられました。

(春日井市 かちがわ北病院)

- ・ 麻疹小流行。

(小牧市 小牧市民病院)

- ・ 伝染性紅斑の成人女子例で関節症状のきわめて激しい例が見られます。

(小牧市 志水こどもクリニック)

#### ● 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌 (01 1歳女、0146 4歳男)  
EBウイルス感染症 3歳女、マイコプラズマ感染症 2歳男  
サルモネラ腸炎 2歳男

(豊田市 星ヶ丘田中こどもクリニック)

- ・ サルモネラ sp.04 2歳女  
咽頭結膜熱 (+)  
ムンプス流行中。水痘流行中。

(豊田市 やふそ小児科)

- ・ ロタウイルス (+) 2歳男

(岡崎市 深田小児科)

- ・ 病原性大腸菌 O18 VT1・2 (-) 4歳  
溶連菌感染症が目立ちます。

(岡崎市 花田こどもクリニック)

- ・ 病原性大腸菌 O1 (+) VT1・2 (-) 8ヶ月  
カンピロバクター (3歳男、14歳男)

(岡崎市 にいのみ小児科)

- ・ 病原性大腸菌 O126 9歳女

(岡崎市 水野医院)

- ・ サルモネラ菌 O8群 11歳男  
(幸田町 とみた小児科)
- ・ 溶連菌感染症目立ちます。  
サルモネラ O4 2歳女  
(碧南市 永井小児クリニック)
- 東三河地区
  - ・ アデノウイルスによる感染と思われる高熱が続く咽頭炎が増えています。  
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
  - ・ アデノチェック A 3歳男  
麻疹 1歳女(ワクチン接種済)  
(蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院)
  - ・ ムンプスが続いています。  
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸チフス患者 1名

知多保健所から報告の21歳男。4/10発病、4/20初診、5/29診定。

インド渡航歴あり。

パラチフス患者 1名

豊田市保健所から報告の22歳男。5/21発病、5/24初診、5/30診定。

菌型はA型。インドネシア渡航歴あり。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

クロイツフェルト・ヤコブ病患者 1名。

梅毒患者 1名

第20週(5月14日~5月20日)の4類感染症の全国状況

麻疹は過去5年間の同時期と比較して定点当たり報告数がかなり多い状態が続いている。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数はここ10年間で最大の値となっている。流行性耳下腺炎は福井県で定点当たり報告数8.0、新潟県で4.2、佐賀県で4.1、福岡県で3.3、香川県で3.0

と報告が多くなっている。伝染性紅斑は関東地方、北陸地方などで定点当たり報告数が多くなっている。流行性角結膜炎も過去の同時期と比較して定点当たり報告数がかなり多くなり、茨城県で5.1、宮崎県で3.8、広島県で3.3の報告がある。急性出血性結膜炎は長崎県で報告が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

2001 年 4 月 20 日号 (76 巻 16 号)

コレラワクチン：最近の世界全体の死亡例数は年間 12 万人。ただ有効性の低さや免疫持続の短さから WHO は従来のコレラワクチンを勧奨しなかったが、最近二種類の経口ワクチンが開発された； WC/rBS 株：不活化ワクチン。菌体細胞膜とコレラ毒素の組合せ。2 回経口接種。安全性は高く、接種 6 ヶ月で有効率は 85 - 90%、3 年で約 50% 有効。CVD103-HgR 株。遺伝子工学で開発された弱毒生ワクチン。米国で志願者に 1 回接種後 3 ヶ月で感染実験すると予防効果は 60 - 100%、熱帯各途上国の調査でも有効性は高かった。両ワクチンとも 5 歳以上が対象。流行地における緊急接種や旅行者が対象となるが他の一般的な注意事項も重要である。

3 月 30 日 - 4 月 5 日届出疾患：コレラ。南アフリカ。

2001 年 4 月 27 日号 (76 巻 17 号)

髄膜炎菌性髄膜炎：チャド。2001 年の髄膜炎流行株が国境なき医師団によりマルセ - コの研究所に搬入、解析の結果 A 群・4 型・P19 亜型。遺伝子学的検索実施中であるが現行ワクチンは有効であり、サルファ剤は無効であるがクロマイは有効。

ポリオ根絶計画：世界の状況。1988 年、WHO は 2000 年には地球上からポリオ根絶を実現するとして運動を開始した。現在ポリオ発生は作戦の結果激減しているが WHO の 6 地区、20 ヶ国で野生株ポリオが現在も流行しており、2005 年における根絶が目標とされている。本報は現況の概略である。定期接種：1 歳までに生ワクチン 3 回接種が目標。アフリカ地区が最低 (99 年で接種率 49%、00 年における常在 20 ヶ国の接種率は 50% 以下)。臨時一斉接種：流行地区における一斉接種。99 年から 00 年において常在 10 ヶ国で接種率が急増した。00 年の一斉接種実施国 (= ポリオ野生株流行国) はアフガニスタン、アンゴ - ラ、バングラデシュ、エチオピア、インド、ナイジェリア、パキスタン、コンゴ共和国、ソマリア、ス - ダンとなっている (地図あり)。ポリオ疾患 (急性弛緩性麻痺) のサ - ベイランス：臨床診断とウイルス学的実験室診断が世界規模で進行中。実験室診断：ポリオ患者の材料からウイルス分離、同定と遺伝的解析：世界的な解析網で分離ウイルスの型と野生株かワクチン株かの鑑別が可能になっている。ポリオ野生株の常在国：上述の西アフリカと中央アフリカ、東地中海地区、東南アジア諸国。99 年には 30 ヶ国であったのが 00 年には 20 ヶ国と減少している。

メジナ虫 (飲料水で経口感染する寄生虫症。前号参照)：チャド。報告数は 98 年以来ゼロであったが 00 年 9 月に 3 例発見、確認。正確なサ - ベイランス網の全国規模における確立が急務となっている。

インフルエンザ (01 年 4 月)：ブラジル、香港 (AH1N1、AH3N2)、B 型。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

忙しっておりますうちに今年も6月になってしまいました。新しい職場に着任なさった方達もぼつぼつお仕事に慣れてこられたころと思います。いつも貴重な情報を有難うございます。5月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：市内各地区で水痘、ムンプス、伝染性紅斑の小規模流行の頻発がみられていますが、特に重症化の傾向はないようです。相変わらずロタウイルス感染症を含む感染性胃腸炎や溶連菌感染症が散発しています（第一日赤有吉先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生（ムンプス髄膜炎あり）、労災病院山田先生、大同病院水野先生）。高熱を伴う咽頭炎、咽頭結膜熱（アデノウイルス陽性例あり）、手足口病が目立つ地区が多く（第一日赤有吉先生、国立病院伊藤先生、城北病院渡辺先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生、大同・水野先生）、急性肺炎、気管支炎も各地区で発生しています。その他川崎病、ヘルペス性歯肉口内炎、ペニシリン耐性の肺炎球菌やインフルエンザ菌、EBウイルス感染症などの報告もいただきました（第一日赤有吉先生、三菱・岩間先生、城北・渡辺先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生）。相変わらず麻疹の小規模流行が各地区で発生していて成人麻疹もみられ、ほとんどがワクチン未接種児ですが、接種歴をもつ成人で1例罹患ありとの報告もいただきました。肺炎などの合併症で要入院例が目立ちますが軽症例もありとのことです（国立・伊藤先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からはムンプス、水痘、手足口病、感染性胃腸炎が目立ち麻疹2例（未接種）、昭和病院西村先生からは伝染性紅斑、咽頭結膜熱、肺炎、岩倉市永吉先生からは急性胃腸炎、アデノウイルス様の発熱を伴う結膜炎、常滑市民病院上田先生からは麻疹（発熱、脱水、重症で要入院例あり）、重症水痘、ムンプス（髄膜炎合併例あり）、咽頭結膜熱が流行中で伝染性紅斑と手足口病が散発中、半田市立病院小児科からはマイコプラズマによる気管支炎、普通感冒が長引いた要入院例、ムンプス髄膜炎数例ありとのお手紙をいただきました。

3. 三河地区：豊田地区では麻疹（要入院例多い）、熱と咳の続くマイコプラズマ肺炎、溶連菌感染症、水痘が目立ち細菌性腸炎散発、ウイルス性脳炎・脳症1例、MRSAによる新生児のブ菌性火傷様皮膚症候群が5-6例あり（トヨタ病院木戸先生、加茂病院梶田先生）、岡崎市民病院系洲先生からは麻疹とアデノウイルス感染症散発中、知立市近藤先生からはムンプスがやや多くアデノウイルス感染症、高熱の感冒が目立つ、刈谷市田和先生からは水痘、ムンプス、溶連菌感染症が散発、2-3日発熱する例が少し目立つ、碧南市永井先生からは溶連菌感染症増加、豊橋市宮澤先生からはムンプスが目立ちはじめ、麻疹1例ありとのお手紙でした。有難うございました。